

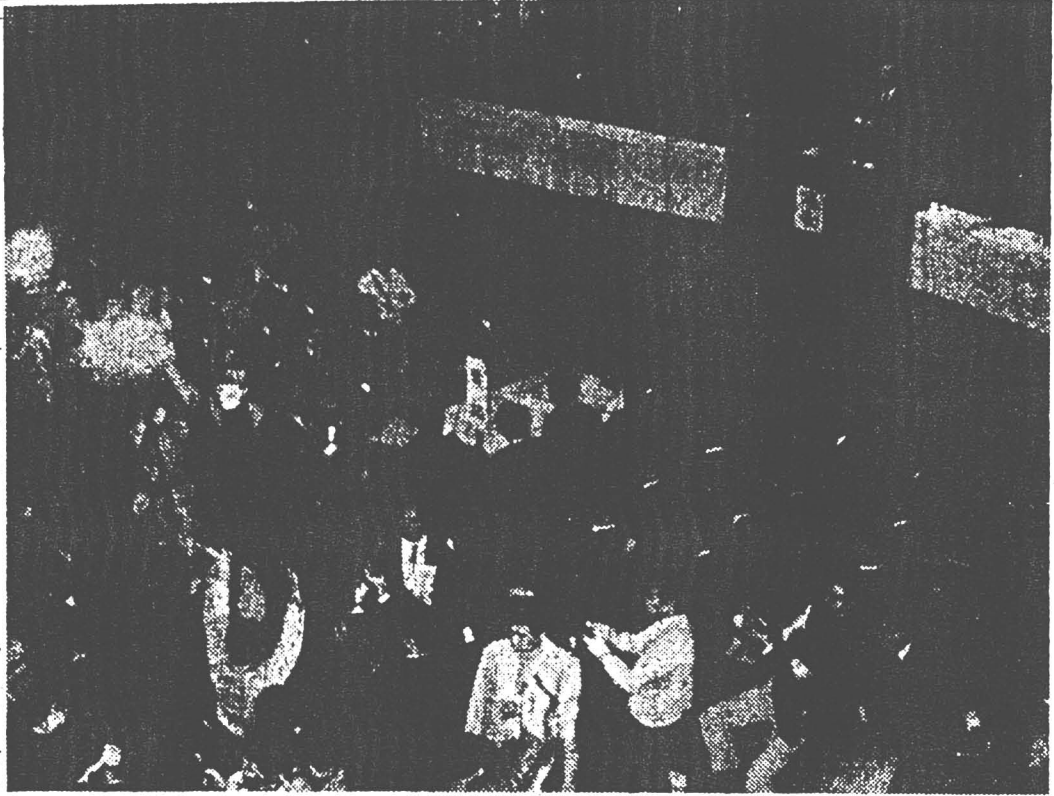
チッソ総会、九分間でケリ

入場口でもみ合い

一株株主 全議案、一気に承認 らを排除

【大阪】水俣病の企業責任を問われているチッソ株式会社(本社・東京、島田賢二社長)の第四十四回定時株主総会は、二十九日午前九時すぎから大阪市東区の国民会館大禮堂で開かれた。前二回の総会の主役、現地の水俣病患者家族は不参加。京阪神をはじめ東京、名古屋、広島などから駆けつけた告発する側の一株株主をはじめ会社側株主、賛成派、右翼株主など約四百人が出席した。

告発する側はほとんど会場で報告書承認など議案を二筆に可決、九分間(九時七十分同十六分)で総会を終わらせた。開会直前に会場入り口でビゲを長は入場した。



全議案を承認して終わったチッソ総会

この八月、社長就任以来初めての総会に臨んだ島田社長は「告発する側の妨害で開会が遅れて申しわけない」と前置きして直ちに議事には入り、議案の賛成報告書、貸借対照表、損益計算書などの承認を求め、前部に陣取った会社側株主らが立ちあがって、異議なしの歓声、拍手で一気に承認した。

会場内にはいった約十人の告発する側の一株株主は「人殺し」「オマエも水銀を飲め」と叫びながら、島田社長が立つ正面舞台へ近づこうとしたが、舞台の手前で「整理」の腕立てをつけた若い男たちによって阻止された。総会は九時十六分から株主総会に移り、同二十二分すべての手定を了、あつけないで開会した。

会場周辺には被服箱の三百人が行列をつくり、早朝からマイク合戦もせり合いを繰り返した。午前八時十五分入場を開始。「整理上の理由」で正面入り口を締め切られて両わき二万席の通用門が入場口。列に並んでいなかった右翼団体大日本菊水会(川井登三会長)の十八人や社員株主を先に入れたため一株株主らは抗議し警備隊が出動、もみ合いとなった。さらに開会直前入り口付近にビゲを張った一株株主らを機動隊員が排除にかかったためあちこちで乱闘となり、路上で爆竹が鳴るなど混乱した。

開会前までに大日本菊水会会員の三人が凶器準備合罪で、総会会場外のもみ合いで告発する側の会員七人が暴行と公務執行妨害などで逮捕された。

議案終了後、告発する側の会員たちは近くの中野島・刺崎公園で集会を開き北区芝罘町のチッソ本店までデモ行進した。

テレビ見守る患者家族

水俣病などの水俣病被害者家族は、テレビで総会のもようを静かに見守っていたが、岡市湯原の藤原派代表渡辺鶴藏さん(七七)は「私たちも總會を盛り上げるため出席したかったのだが、水俣病地では新認定患者のすわり込みも続いており、緊迫した情勢になっていたので、出席を断念した。患者が出席しなかったため、チッソとしては当然あんな手段に出ると思っていた。もし患者が出席したなら、その簡単には取り扱えなかっただろう」と語った。

最近、チッソは患者と支援団体を区別して対処しようとする動きがあり、今回の総会でもそれが現われたとの受け取り方である。